

経口ワクチン事業の成長に応じた サステナブルな原料(蚕)調達サイクルの 構築に挑戦

地方自治体との連携による「養蚕業の復興」と
「桑畑の植林」で、カーボンプレジットを活用しながら
蚕の安定供給先を確保します。

KAICOが開発を進めるワクチンや医薬用タンパク質の原料となるのが蚕です。KAICOの事業が伸長するにつれ、原料となる蚕が億単位で必要となります。

そこで私たちは、自治体との連携による「養蚕業の復興」と、蚕の餌となる「桑畑の拡大」について計画を進めています。桑畑を増やすことでカーボンニュートラルに寄与すると同時に、養蚕業を復興させ、育てた蚕をKAICOが買い取ることで収益や雇用を生む。地方創生や耕作放棄地・中山間地の活用に貢献しながら安定的に蚕を確保できる、サステナブルな調達サイクルを構築しようとしています。



経口ワクチン事業の成長に応じた サステナブルな原料(蚕)調達サイクルの構築に挑戦

- 全国複数の自治体と連携した原料(蚕)調達サイクルを構築することで、全国に桑畑を増やし、将来は3万トン/年のCO2削減を実現します。
- このような「調達サイクル」とKAICOの「ワクチン原料生産技術」を、ベトナム等の途上国にも移転していくことで、途上国の振興とCO2削減に寄与します。（※ベトナムでは経口ワクチンの原料を飼料に配合して販売する事業を予定しています。）
- 経口ワクチン生産技術を活用し、「ウシのげっぶに含まれるメタンガスを削減する餌」の開発を行います。

